

旭川歯科医師会便り

Vol.55



事務局／旭川市金星町1丁目1-52 道北口腔保健センター内
☎(0166)22-2361

<http://www.ahmic21.ne.jp/kyokushi>

むし歯ゼロへの近道、フッ化物応用 第31回むし歯予防全国大会 in 沖縄

平成19年11月23日午後2時から4時間、第31回むし歯予防全国大会が、沖縄県男女参画センター「ていりる」（那覇市）において、日本むし歯予防フッ素推進会議、沖縄県歯科医師会、沖縄県主催で開催されました。

日本歯科医師会会長からの祝辞では、「日本歯科医師会としては、地域・国・歯科関係に対して、フッ化物応用の推進の姿勢を持っている」と述べられました。

テーマは「むし歯ゼロへの近道、フッ化物応用」で、朝日大学歯学部磯崎 篤教授の基調講演に続き、日本歯磨工業会の山本氏から「フッ化物配合歯磨剤のシェア」が89%になったこと。沖縄県福祉部の玻名城歯科衛生士から「沖縄県全国一むし歯が多いことと沖縄県におけるフッ化物応用の現状」の報告、高江洲東京歯科大学名誉教授、沖縄県福祉部の新里歯科医師から沖縄でかつて実施していた水道水フッロリデーションについて、沖縄県久米島市志川歯科診療所の玉城院長の3名のシンポジストによる意見発表の後、シンポジウムがありました。

基調講演では「むし歯予防法は、発生要因から①むし歯に対して抵抗性の強い歯質をつくる、②歯の表面環境を清潔な状態に保つこと、の両者が考えられますが、歯磨きの予防効果には限界がある。そのためにも、むし歯に対する歯質の抵抗性を高めるには、フッ化物による歯質強化を行うことが必要である。

世界の他の先進諸国では、フッ化物応用の普及が進み、日本よりもむし歯は劇的に減少している。しかし、わが国が依然として、フッ化物普及の遅れがあり、フッ化物応用の普及と推進が最優先課題である」との講演がありました。



治療中心の掘り返し医療で国民の口腔の健康は獲得されるのですか？

またシンポジウムではフッ化物応用の普及をいかに進めるかについて、各々の立場からの提言がなされ、特に「治療中心の掘り返し医療で国民の口腔の健康は獲得されるのですか？掘り返し医療という不幸から国民を救い出せるのは、水道水のフッロリデーションしかありません。」という玉城歯科医師の発言に大きな拍手が沸き起こりました。（水道水のフッロリデーションとは、水道水のフッ化物濃度を適正な濃度に調整することによってむし歯予防をする方法で、現在米国、オーストラリアなど約60か国で約4億人が実施中です。）



さらに30年以上に渡るフッ素洗口によるむし歯予防の普及への貢献が評価され、新潟大学予防歯科教室が、第51回保健文化賞を受賞したことで、フッ素洗口によるむし歯予防法が全国的に急速に拡大していることが紹介されました。旭川からは、当会の八重樫理事ら3名が参加しました。